

「ネット」とのつきあい方を、ご家庭でも…。

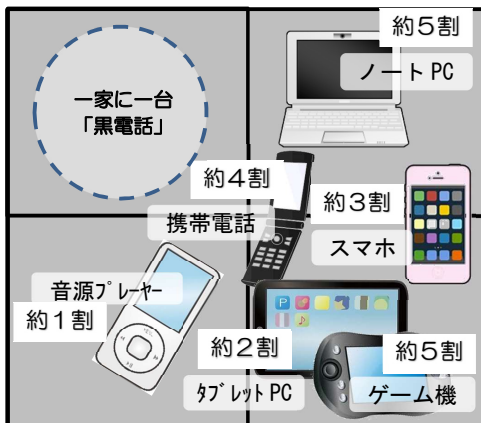
～「ネットトラブル」の加害者にも被害者にもならない！～

「ネット」環境は、私たちの生活を支える上で欠かせないものになりました。子供の身の回りに限っても「ネット」につながる機器が多くあります。子どもの「やってみたい」という好奇心から「ネットトラブル」に無自覚に巻き込まれることが大きな問題になっています。

「ネットトラブル」を見逃さないために、一緒に考えていきたいと思います。

まず、「ネット」につながるための機器を、【子供が「ネット」につなげやすいもの】と【保護者が利用状況を見やすいもの】の2つの観点で整理してみました*1。

「ネット」への つながり易さ



利用状況の見やすさ

1. 予備知識として … 全て頼るのも限界！

左の図を見て、各家庭の環境から、「つながりにくく」「見えやすい」環境を作ることの難しさが一目瞭然だと思えます。

◆ハード面からの保護◆

タイマー付きのルーターの設置（または、電源を抜く）や、機器の利用制限を設ける等が考えられます。ただし、これは、「ネット」利用の初期段階での話です。既に「ネット」利用をしている段階では、約束の再設定（仕切り直し）と、大人も「一緒の環境」で利用する覚悟も必要です。

◆ソフト面からの保護◆

どんな危険性につながる使い方（ネットいじめ、個人情報漏洩、詐欺など）をしているか把握するサービスもあります*3。ただ、全ての情報を把握し対処することは困難です。

*数字は、小学生が「ネット」接続に使う割合を示す*2

須田小学校では、「ネット」の利用状況については詳細な調査をしていません。音源プレイヤーという音楽を聴くための物でも、家の人の携帯電話の番号等を借りて、「疑似スマホ」に変えてしまう等、把握しきれないからです。

2. 予備知識として

発達途上の子どもの特性を知り、段階的な指導が一番確実！

また、ハード・ソフト両面の制限を補助的に使い、確実性を高める

「ネットトラブル」は千差万別です。その全てを子供に指導することは時間的に無理です。また、抽象的な説明は子供の関心を高めるだけです。（ダメだと言われたことをしたがる）では…？

「脳は真空を嫌う」

これは、脳は分からないことがあると、分からないままにしておくこと（真空状態）を極度に嫌い、いわゆる「作話」（つまり、自分にうそをつくこと）をしてしまうということです。経験値が低い子どもは、参考データが少なく、大人以上に「危ないことでも、大丈夫だ。」と作話をしてしまいます。これが、相手の顔が見えない「ネット」では、「いい人」だと「作話」をして、個人情報や写真を送ってしまう原因となります。反対に、ちょっとした言葉でキレたりするのも、「悪い人」だと「作話」をしてしまい、相手を攻撃することにもなります。名誉毀損や威力業務妨害といった犯罪行為を知らない内にしていることとなります。

親子で一緒に使う = 親のいる所で使う = 終了時刻を決めて使う = …

お子さんの実態を見極め、ハード・ソフト両面の制限を掛け、段階的な使用をおすすめします。また、「危険性」だけでなく、私たちの生活に大きく関わる「利便性」の両面の指導も忘れずに！

*1 「インターネットトラブル事例集（平成29年度）」（総務省）を参考に作成した。各家庭の「ネット」環境（Wifiが自由に使える等）や機器数で変わる。

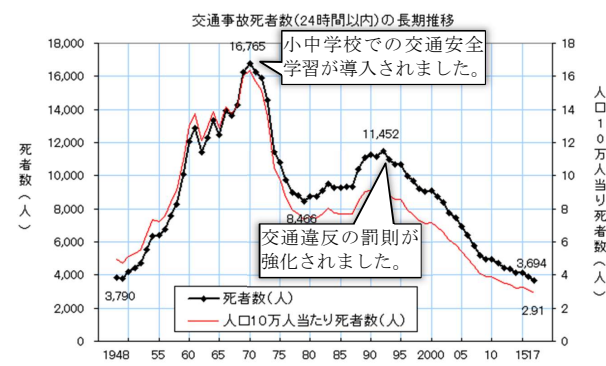
*2 「情報通信白書（平成26年度）」（総務省 平成26年）

*3 filii等のサービスがあります（有料）。



「時間のズレ」～「不審者」「交通事故」から子どもの安全を～

明日から子どもたちは夏休みとなります。しかし、子どもたちを取り巻く「大人」はいつもと同じです。このことを「大人の目線」で見ると、いつもは見掛けないはずの時間帯に「子どもがいる」ということです。反対に、「子どもの目線」で見ると、いつもは通らないはずの時間帯に、「自動車やバイク、そして見掛けない人がある」ということとなります。学校でも、安全確保の上からも、「自動車が、人が」来るかもしれない、という「かもしれない」意識を指導しています。保護者や地域の皆様からも、子どもの経験不足を補う、「大人の知恵」の指導をお願いします。



(注)1971年までは、沖縄県を含まない。数値表記はピーク・ボトム時、及び最新年
2017年の発生件数及び負傷者数は、交通事故日報集計システムにより集計された概数である。
(資料)警察庁「平成29年中の交通事故死者数について」

左の資料は、戦後からの交通死亡事故の変化を表しています。大きく発生件数が激減しているところがあります。1970年の場合、自動車の普及に、環境整備(歩道や信号機等)の改善が対応していなかったことや、「歩行者優先、左右確認」という交通ルールやマナーが十分徹底されていなかったことも背景にあると言えます。これを受け、小中学校での交通安全指導が始まり、「交通安全母の会」が設立されたのもこの時期です。

1990年頃の増加の原因として、軽自動車の普及による「一人一台」による交通量の激増にあると言われて

います。飲酒運転等を中心とした厳罰化もあり、発生件数を減少していますが、今なお尊い命が失われています。

須田小学校では、昨年度から、**全校交通安全運動「笑顔でべこり」**に取り組んでいます。道路を渡る際は、感謝の気持ちを表すくらい心の余裕をもつことの大切さを指導しています。帰りの会のプログラムの一つに位置付けています。

7月の児童アンケートでは、子どもたちの取組が広がってきています。「いつでも、どこでも、ひとりでも」徹底するよう、指導を続けてまいります。

かろ かい まじょう えびる
帰りの会の須田小 笑顔でべこり

- ・ 須田小 笑顔でべこりをしましょう
- ・ きりつ とりのひとと向き合しましょう
- ・ 手を上げて 右左右をしっかりと見ましょう
- ・ 車がとまりました。笑顔で感謝の気持ちを表しましょう
- ・ すばやく、渡って、もう一度、笑顔で感謝の気持ちを表しましょう
- ・ いつでも どこでも ひとりでも 須田小 笑顔でべこりを忘れません
- ・ さようなら

不審者については、「学校だより3号(2018.5.27)」にも掲載しましたが、引き続き、「**複数で行動する」「はっきりした言葉づかい**」を指導しています。「複数で行動すること」は、「不審者」の言動の不自然さを「見えやすく」します。また、以前、警察署の方から、「よく知りません。大人の人に聞いてください。」等のしっかりした受け答えは、自分より「弱い」相手に近付く傾向のある「不審者」を抑止する働きがあることも指導していただきました。

「時間のズレ」につけ込んで、子どもたちに近付くのは、「黒いサングラス」と「マスク」といった「定番スタイルの不審者」ではなく、「優しそうなお顔」をして「言葉巧み」に近付いてくる傾向もあるそうです。子どもの判断力だけで「安全」を守ることに限界もあります。ご家庭や地域でもご指導をお願いいたします。

笑顔で
べこり

二人以上
の行動

はっきり
言葉

須田っ子
安心安全
3きょうだい